

2023年5月

「コリール」56号 目次

巻頭言（1～3） 創立50周年記念特別イベント（3） 創立50周年記念国際会議開催報告（3～4） 国際会議開催報告（4） 令和4年度全国大学教育研究センター等協議会を主催して（5） 令和4年度東京大学&広島大学共同高等教育公開セミナー「激変する社会における教養教育の課題」開催報告（5～6） 令和4年度神戸大学&広島大学共同高等教育公開セミナー「教学 IR を教育改善につなげる」開催報告（6） 第50回研究員集会報告（7） 2022年度の公開研究会（8～9） センター往来（9） 新任者・離任者から一言（10～15） 情報調査室だより（16）

巻頭言



京都大学高等教育研究開発推進センターの 廃止が問うもの

夏目 達也

（桜美林大学教育探究科学群・教授）

京都大学高等教育研究開発推進センターが、2022年9月をもって廃止された。これまでもいくつかの大学で大学教育関係センターが教育推進機構等に再編され、その目的や活動内容の変更を余儀なくされてきた。それが京都大学にまで及び、さらに再編ではなく廃止にまで至った。その衝撃は大きい。

京大のセンターは、全国の数あるセンターの中でも、とりわけ熱心・大規模に活動を展開してきた。活動実績をあげれば切りがないほどである。①文部科学省の各種プロジェクトに積極的に応募・挑戦し、大型の補助金を継続的に獲得した。②将来大学教員をめざす大学院生向けに教育能力を形成するためのプレFDを、全国の大学に先駆けて開催し、その内容を充実させた。③オープンコースウェアやMOOC等のICT技術を活用した新たな教育改善の取り組みにも積極的に挑戦した。④大学教育研究フォーラムを毎年開催して、全国の大学関係者が教育改善について研究成果を持ち寄り意見交換したりそれを各大学で展開したりする場を提供した。⑤連携する大学の教員と共同して授業改善のための努力を積み重ねた。

センターのスタッフは、多忙な業務の傍ら、研究活動も熱心に行っており、その成果を学術書として何冊か公刊している点も特筆されよう。近年は、学内の教育改善にも従来以上に取り組んでおり、とくにコロナ禍では、オンライン授業の進め方等について具体的な提案をしたり教員向けにアドバイスをしたりするなど、支援活動を活発に展開している。その活動ぶりには、学内から感謝や支持が寄せられていると聞く。これだけの活動をしていても廃止されるというのはなぜか、そもそも学内外にこれだけの多大な貢献をしている組織を廃

No. **56**

止ることが許されるのか等、多くの疑問と不審感を抱く人は学外にも多い。

廃止に至った学内事情やその背景について、すでに京大の駒込武氏が大学ファンドとの関連で述べている。ここでは、別の角度から、京大のセンター廃止が提起している若干の問題について考えてみたい。

京大のセンター廃止でもっとも大きな衝撃を受けたのは、まちがもなく各大学の大学教育関係のセンター関係者である。明日は我が身と感じた者は多いはずである（筆者自身もつい2年前までセンターに勤務しており、まさに当事者の一人）。

このような感情を抱くのは、大学におけるセンターの立場の弱さを、日々実感させられているためである。ほとんどのセンターは規模が小さい。数がものを言う大学学内では圧倒的少数派であり弱者である。教育という活動自体がそうであるように、それを扱うセンターは地味であり世間の脚光を浴びるといことは少ない。とかく世間の評価を気にする執行部等は、その活動の意義をなかなか認めない（認めたがらない）。

センターと研究科・学部との関係も微妙である。共同研究・教育機関として設置された場合にも、サービス機関と目され、研究科・学部では行にくい事業を担当したり、彼らの活動を支援したりする立場である。大学院の授業を担当する場合には、センターが単独で開講することはできず、研究科の看板に頼らざるを得ない。要するに、研究科・学部との関係は対等な立場となりにくいのである。執行部に近い立場で発言・活動をする場合や、それを余儀なくされる場合も少なくない。ときに研究科・学部と利害が対立するために、学内からの支持を得にくいこともある。さらに、機構化されたことにより、学内の教学関係の業務、学内関係組織との連絡・調整、認証評価等の学外から求められる各種業務など、業務量が年々増大している。それに見合ってスタッフの増員が図られるわけではないので、センターの教員は疲弊する。結果として、高等教育研究者としての専門性を具体的に目に見える形で発揮することは、ますます難しくなっている。

京大のセンター廃止の衝撃は、現職のセンター所属教員にとどまらない。これから就職しようという高等教育研究者も同様である。センターは、高等教育研究者にとって数少ない就職先になってきた。任期付き雇用となるケースが多いが、それでも、若手研究者を中心に多くの人が、センターに活躍の場を求めて挑戦している。困難な勤務条件のなかでも、立派な研究業績や各種業務でも成果をあげるなどして、任期延長や任期付きでない雇用への移行を勝ち取った人も少なくない。決して恵まれた条件ではないにしても、センターが若手の高等教育研究者にとって、キャリアを形成する場として、一定の役割を果たしてきたことも確かであろう。センター廃止によって、その機会・場が奪われることは、ただでさえ困難な就職をいっそう難しくする。若手研究者にとってダメージが大きい。

この事態を前にして、センター関係者や高等教育研究者はどうすればよいのだろうか。センター関係者の団体として、「全国大学教育研究センター等協議会」がある。これは広島大学のセンターが全国の国立大学の大学教育関係センターに呼びかけて、1996年4月に設置された。すでに30年の歴史をもつ。このほかにも、全国の国公立15組織が加盟する「大学教育イノベーション日本」（2016年9月設立）もある。センターの関連業務ごとの組織も近年相次いで設置されている。「日本高等教育開発協会」、「日本アカデミック・アドバイジング協会」、「日本インスティテューショナル・リサーチ協会」、「大学アドミッション専門職協会」等である。これらの団体に加盟していなくても、大学教育関係のセンターを設置する大学もある。

問題は、これらの組織がどのような活動を行うかである。まず、センター関係者が、関係する組織・団体を通じて抗議の声をあげることである。たったそれだけ、と思われるかもしれないが、第1歩としてはそれだろう。残念ながら、大阪大学の村上正行氏らが発起人となって始めたセンターの機能存続を求めるオンライン署名以外に、センター関係者のめだつた動きは広がっていない。

各組織とも、大学内の既存の職やその関連組織との差異を強調し、その独自の役割を主張する。そのことは、みずからの存在意義を示したり専門性を高めたりするために、必要な側面であろう。しかし、今求められているのは、共通の職場であり活動基盤であるセンターの存続である。センターの存続なし

に職の存続も困難にならざるをえない。この点で認識・利害を共有できる。

センターに勤務する者として、センターの活動やその役割・必要性を大学関係者や行政に訴えることがまず必要であろう。そのために、各組織内での活動に留まらず、組織間の連携も不可欠といえる。

センターが曲がりなりにも若手の高等教育研究者に雇用機会を提供してきたことを考えれば、大学教育関係学会も当事者である。幸い、大学教育学会と高等教育学会は、センターをめぐる問題について検討を始めた。

センターの存立基盤の脆弱性や再編成をめぐる問題について、センター関係者は不安を抱きつつも正面から議論してきたとは言いがたい。今回の京大センターの廃止は、この問題から目をそらさずに議論し、行動することを迫っている。

創立50周年記念特別イベント

「荻谷剛彦先生と話そう」「荻谷剛彦先生と話そう：フォローアップ編」開催報告

小林 信一

(広島大学高等教育研究開発センター長)

創立50周年記念特別イベントとして、海外から見た日本の高等教育や社会に関して発信しているオックスフォード大学の荻谷剛彦教授をゲストに迎え「荻谷剛彦先生と話そう」を2022年4月28日に開催しました。当日は、参加者がその場で荻谷先生に問いかけ、議論するという形で進めました。進行役は小林が務めました。素直な議論ができるように、録画はせずに同時配信のみで開催しました。

また、当日十分には議論できなかつた質問や、その後追加的に集めた質問等について議論するために、「荻谷剛彦先生と話そう：フォローアップ編」を開催しました。これは、荻谷先生と進行役・小林の二人による対論形式で進めたものをあらかじめ映像データとして収録し、2022年7月8日から14日までの期間限定で配信しました。

録画をせずに実施したため、参加者数や内容に関する記録が残っておらず、正確に報告することができませんが、研究の仕方から日本の大学や社会まで、多面的な議論ができました。

創立50周年記念国際会議開催報告

黄 福涛

(広島大学高等教育研究開発センター教授)

広島大学高等教育研究開発センター創立50周年を祝うイベントの一環として、「Higher Education Research: Changes and Challenges (高等教育研究－課題と展望－)」と題したオンライン国際シンポジウムを2022年5月14日に開催いたしました。

この国際シンポジウムは、個々の研究センターや高等教育機関が直面する一般的な問題や独自の課題について分析し、これらの課題に対処する方法について議論することを目的におこないました。

シンポジウムは2つのセッションから構成されており、最初のセッションは、広島大学の副学長(役職は開催当時のもの)である安倍学氏とRIHEのセンター長である小林信一教授からの挨拶で始まりました。

その後、オーストラリア・メルボルン大学のリチャード・ジェームズ氏が、オーストラリアにおける高等教育研究と研究センター等の将来性について論じました。

続いて、中国・北京大学の閻風橋氏が、中国の高等教育の近代化と日本から波及する影響について解説し、中国・上海交通大学の劉念才氏が、中国の高等教育研究機関が直面する課題と提言について話しました。後半のセッションではドイツ・カッセル大学のウルリッヒ・タヒラー氏が、ドイツにおける高等教育研究のおこりうる未来について概説し、イギリス・オックスフォード大学のサイモン・マージンソン氏は、20年前に発表された彼の「グローナカル」論文に焦点を当てた国際的な高等教育研究の空間分析結果を発表しました。次に、アメリカ・ボストンカレッジのフィリップ・アルトバック氏が、事例研究とより広範なパターンに基づいて高等教育研究センターを調査した結果を発表しました。

最後に、筑波大学の金子元久氏が、5人の講演者のプレゼンテーションに対するコメントをおこない、高等教育研究の課題と展望についての彼の見解を共有してくれました。

また、この国際会議の記録は『RIHE International Seminar Reports』No.26として2022年11月に出版されました。センターHPにて公開してありますので、関心のある方は、そちらをご覧ください。

国際会議開催報告 (CGHE: CGHE East Asia Researchers' Meeting)

黄 福涛

(広島大学高等教育研究開発センター教授)

広島大学高等教育研究開発センター (RIHE) は、オックスフォード大学のグローバル高等教育センター (CGHE) の後援を受け、2023年3月19日から21日にハイブリッド形式で「CGHE East Asia Researchers' Meeting (CGHE 東アジア研究者会議)」を開催いたしました。

この会議は、筆者が日本学術振興会 (JSPS) から助成を受けたプロジェクトの一環として行われ、東アジアにおける高等教育研究と協力の推進に焦点を当て、国内、地域、そしてグローバルな課題に取り組みました。

1日目には、当センター長の小林信一教授が開会の辞を述べ、オックスフォード大学のサイモン・マージンソン教授が高等教育の目的について話しました。その後、立教大学のトーマス・ブラザーフッド氏、大阪大学の陳麗蘭氏、ソウル国立大学の李欣氏、高雄医学大学の魯盈謙氏、北京大学の謝鑫氏、嶺南大学の熊衛雁氏、香港大学の楊力蒞氏が、自身の研究成果や観察結果を参加者と共有しました。

2日目には、西洋化と脱植民地化の問題の文脈で、国内および地域の高等教育問題に焦点を当て、台湾国立政治大学の陳榮政氏、広島大学の大膳司氏と金良善氏、上海交通大学の馮卓琳氏、筆者、嶺南大学の莫家豪氏、北京大学の沈文欽氏、ソウル大学校の申正撤氏、清華大学の文雯氏、東北大学の米澤彰純氏、オックスフォード大学の許心氏が発表を行いました。

最終日の3日目は、研究者とオンライン参加者の間で、国際的なつながりに関して政府や機関からどのような制限を受けているのか、どうすれば良い協力関係を維持できるのか、といった議論がなされました。



令和4年度 全国大学教育研究センター等協議会を主催して

大膳 司

(広島大学高等教育研究開発センター副センター長／教授)

令和4年9月7日・8日に、全国の大学教育研究センター等の構成員が集まって、協議会をハイブリッド形式にて開催しました。

この度の全体テーマは「学生の学習意欲を育む教育環境の創造」でした。

外部講師の講演や学生の学習意欲を育むような教育環境のあり方についての各大学の経験を持ち寄っての検討を通して、各大学が学生の学修の量や質を高めるための新たな施策を検討する一助となることを期待してのテーマ設定でした。

初日は、慶応義塾大学教職課程センターの鹿毛雅治教授に「学生の学習意欲を育む教育環境」をテーマに基調講演いただきました。学習動機付けの価値期待理論に基づいて学生の学習意欲をはぐくむことを指摘した内容でした。

この講演に続いて、参加者が6グループに分かれて、各校の「学生の学習意欲を育む教育環境の創造」に関する情報を交換し、相互の理解を深めました。

夕方は、学内のマーメイドカフェにて、各校の情報交換に努めました。

2日目は、「有効なオンライン授業の方法」「内発的動機付け」「大学院博士課程の教育改革」「文理融合・分野横断による STEAM 教育の意義や価値」「教育成果・学修成果の可視化の現状と課題」「ディプロマ・サプリメント（学位証書補足資料）」「卒業生・修了生に対する追跡調査」の7つのテーマ分かれてグループ討議を行い、終了後は、各グループでの討論内容についての情報共有を行いました。

最後に協議会総会を行い、これまでの協議会の活動成果について共有した。

30名近くの教員が対面で参加しグループワークを行いました。このような対面実施の効用は、ほとんどの対面参加者がテーマに集中しているということではないかと思われれます。その意味で、オンライン参加に比べて効果が出やすく、参加者の満足度も高まることが期待されます。私自身は、この度の協議会の内容に満足しました。参加者のみなさんはどうだっただろうか？

令和4年度 東京大学&広島大学共同高等教育公開セミナー 「激変する社会における教養教育の課題」開催報告

福留 東土

(東京大学大学院教育学研究科教授)

2022年9月5日、東京大学本郷キャンパスにおいて、標記の公開セミナーを開催しました。広島大学高等教育研究開発センター（以下、RIHE）と東京大学・大学経営・政策コース（以下、大経コース）とが正式にコラボした、記念すべき初めてのイベントとなりました。

公開セミナーは大膳司教授（RIHE）の司会によって進行され、対面とオンラインの双方で参加可能なハイフレックス方式で開催されました。参加者は双方の合計で約180名の多数に上りました。

はじめに、小林信一教授（広島大学高等教育研究開発センター長）、小玉重夫教授（東京大学大学院教育学研究科長・教育学部長）から、合同セミナーの開催に際して挨拶がありました。基調講演は、「教養教育（リベラルアーツ）が目指すもの」と題して森山工教授（東京大学大学院総合文化研究科長・教

養学部長)にお話しいただきました。その後、黄福涛教授(RIHE)より「世界の教養教育の動向と今後の課題」、福留より「日本の教養教育の現在地」、村澤昌崇准教授(RIHE)より「大学の教育効果の探究—EBPM・因果推論・IR等々を手がかりに—」と題した3つの報告が行われました。その後、対面・オンラインでの参加者との間で活発な質疑応答が交わされました。

RIHEと大経コースの両組織は、これまでも様々な形で実質的な連携・協力を進めてきましたが、今回の共同セミナーの開催をきっかけとして、フォーマル/インフォーマルの両面でさらに協力関係を深めていければと願っています。

日本最多の高等教育専門スタッフを擁する伝統ある研究拠点と、最大規模の高等教育大学院プログラムとが建設的な協力関係を結ぶことは、日本の高等教育研究の発展、ひいては大学・高等教育そのものの発展にとってきわめて重要なことだろうと思います。そして、今回のように、対面とオンラインを的確に活用することで、我々の協力関係をこれまで以上に促進しうる可能性が広がっていると思います。これからも、議論を重ねながらお互いに刺激し合って、有意義な企画の開催や共同研究の実施につなげていきたいと思っています。

今回のセミナーの開催に尽力いただいた広島大学・東京大学の関係者の皆さん、基調講演を行っていただいた森山教授に心から感謝致します。

令和4年度 神戸大学&広島大学共同高等教育公開セミナー 「教学 IR を教育改善につなげる」開催報告

大膳 司

(広島大学高等教育研究開発センター 副センター長/教授)

2022年11月18日に、広島大学高等教育研究開発センター創立50周年を記念して、神戸大学大学教育研究センターと共催で、神戸大学において、「教学 IR を教育改善につなげる」をテーマとして、ハイブリッド形式で、高等教育に関する共同公開セミナーを開催しました。

平成30年(2018年)度から3巡目の認証評価が始まっています。しかし、大学の教育研究活動の成果を測定するのは容易ではないこと、大学が認証評価以外にも様々な評価・調査業務への対応に迫られ、「評価疲れ」の問題が生じていること、社会一般における認証評価制度の認知度が十分でないこと等が指摘されています。こうした状況のなかで、大学教育の質のあり方を問い直す方法として、「教学 IR」が注目を集めています。

このたびの共同公開セミナーでは、教学 IR の理論と実践について鳥居朋子先生(立命館大学教授)から「質保証に向けた教育プログラムの評価および改善と IR 機能—ティップス開発の研究プロセスに基づいて—」と題した講演を、浅野茂先生(山形大学教授)からは「山形大学における教学マネジメントの実践事例—ディプロマ・サプリメントを題材に—」と題した講演をいただくとともに、内部質保証の実践・改善に携わっている吉田香奈先生(広島大学准教授)からは「広島大学における教育の内部質保証の仕組み」について、葛城浩一先生(神戸大学准教授)からは「神戸大学における教学 IR の課題—DPに着目して—」と題しての実践報告をいただきました。

この度の共同公開セミナーは、創立50周年を迎えた当センターと今年度改組・誕生したばかりの神戸大学大学教育研究センターとの老舗と新興2つの研究センターのコラボレーションでした。

認証評価や教学 IR に携わっている高等教育機関の教職員やこれらの課題に関心をお持ちの研究者の皆さんからの活発な質疑応答が行われ、盛会のうちに終えることができました。

第50回研究員集会報告

大膳 司

(広島大学高等教育研究開発センター副センター長／教授)

2022年11月25日「激動期の高等教育－将来像と課題－」をテーマに第50回研究員集会をハイブリッド形式で開催しました。

新型コロナウイルスの常態化によって経済活動が停滞したこと、ロシアのウクライナ侵攻によって物価が急騰したこと、テクノロジーの進化によって働き方が変化することなどを振り返ると、未来社会の状況を予測することはますます困難となっていると思われます。

本年度の研究員集会では、各国政府はどのような高等教育政策を掲げてこのような激動する社会に対して臨もうとしているのか、近年の日本の大学では、どのような教育・研究・管理運営活動が期待されているのか、などについて参加者の皆様と検討するために、広島大学長の越智光夫先生、ソウル大学教授の Jung Cheol SHIN 先生、大阪大学教授の川嶋太津夫先生、東京家政学院大学理事長の吉武博通先生の4名から基調講演をいただきました。

さらに、その基調講演に対して、鳴門教育大学長の佐古秀一先生、広島修道大学副学長の増田尚史先生、広島工業大学教授の大谷幸三先生からコメントをいただき、参加者を含めての熱心な質疑応答を展開いただきました。

お忙しい中、貴重な時間を割いて、最後まで討議に参加いただいた皆様には厚く御礼申し上げます。

この研究員集会は、広島大学学長が支部長を務める IDE 大学協会中国・四国支部と共催いたしました。IDE 大学協会中国・四国支部の関係者にも重ねて御礼申し上げます。

なお、この研究員集会の記録は当センター刊行の『高等教育研究叢書』第171号として今年度刊行されます。詳細はそちらをご覧ください。



2022年度の公開研究会

開催した公開研究会のうち、講師の許諾のとれた資料・録画は、センター HP で公開 (https://rihe.hiroshima-u.ac.jp/video_and_materials/) しております。

また情報調査室にて視聴サービスもおこなっております。ぜひご活用ください。
※情報調査室での視聴を希望される場合は、事前に予約を取ってください。

* 肩書は当時のもの

	講 師	テ ー マ
第1回 (2022/5/12)	中尾 走 (広島市立大学/広島大学大学院) 樊 怡舟 (広島大学特任学術研究員/広島大学大学院)	高等教育研究資源ナショナルセンター企画 交絡変数の部分的統制に関する考察：プロキシバイアスに焦点を当てて
第2回 (2022/7/4)	三上 亮 (株式会社ニックス/広島大学大学院博士課程後期修了生)	博士学位シリーズ 資格制度形成過程から見える理学療法士の専門職性：イシュー・エリア・アプローチと「政策の窓」モデルを用いて
第3回 (2022/7/28)	李 敏 (大学改革支援・学位授与機構)	高等教育研究資源ナショナルセンター企画 中国人留学生在日本で高等教育を学習・研究するにはどうすればよいか
第4回 (2022/9/7)	鹿毛 雅治 (慶應義塾大学)	全国大学教育研究センター等協議会 基調講演 学生の学習意欲を育む教育環境
第5回 (2022/9/21)	筒井 淳也 (立命館大学)	高等教育研究資源ナショナルセンター企画 社会科学の計量分析再考：“説明”の評価と解釈に関する数理的開発と検証
第6回 (2022/10/6)	宮田 弘一 (静岡産業大学/広島大学大学院博士課程後期修了生) 中尾 走 (広島市立大学/広島大学大学院)	高等教育研究資源ナショナルセンター企画 体育会系神話の検証：体育会系学生の内定獲得に関する傾向スコア分析 －マイナビデータ分析研究シリーズ－
第7回 (2022/10/17)	Kiyong Byun (高麗大学)	黄福涛科研研究会 (基盤 B) ① COVID-19は高等教育にどのような変化と機会をもたらしたか －韓国での4年制大学の学部長・学科長の意識調査に関する分析
第8回 (2022/11/15)	Xin Li (ソウル大学)	黄福涛科研研究会 (基盤 B) ② 周縁化された者の学問的アイデンティティ開発 －韓国における人文・社会科学分野の中国人博士課程学生に関する研究
第9回 (2022/12/15)	Anthony Welch (シドニー大学) Tatiana Fumasoli (ロンドン大学)	黄福涛科研研究会 (基盤 B) ③ 新しい環境における変化する高等教育の国際化
第10回 (2022/12/16)	大膳 司 (広島大学) 黄 福涛 (広島大学) 米澤 彰純 (東北大学) 白川 展之 (新潟大学) 小林 信一 (広島大学)	黄福涛科研研究会 (基盤 B) ④ 外国高度人材の雇用・活躍と課題 －頭脳循環をめぐる環境変化と日本の政策対応を中心として－

	講 師	テ ー マ
第11回 (2023/1/17)	金 良善 (広島大学) 宋 仁英 (高麗大学) 三好 登 (広島大学) トーマス・ブラザーフッド (立教大学)	黄福涛科学研究会 (基盤 B) ⑤ 比較的観点からみる日本と韓国における外国人教員と研究者
第12回 (2023/1/23)	李 明 (大阪大学)	黄福涛科学研究会 (基盤 B) ⑥ 日本企業における外国人研究者：なぜ日本で働くのか、仕事の役割と直面する課題は何か？
第13回 (2023/2/2)	Sascha Krannich (ギーゼン大学)	黄福涛科学研究会 (基盤 B) ⑦ 彼ら・彼女らは残るべきか、去るべきか？ドイツにおける留学生のケーススタディ
第14回 (2023/3/6)	小竹 雅子 (島根大学)	黄福涛科学研究会 (基盤 B) ⑧ 外国人教員とホスト環境との適合性課題の探索：日本の地方国立X大学を事例として
第15回 (2023/3/24)	木村 弘志 (東京大学) 井芹俊太郎 (神田外語大学)	国際共同研究推進事業 令和4年度採択者による公開研究会 ホワイトカラー労働者にとっての「大学教育の効用」の検証—「学び習慣仮説」の枠組みを用いて
第16回 (2023/3/29)	両角亜希子 (東京大学) 菊澤 研宗 (慶應義塾大学) 太田 肇 (同志社大学)	高等教育研究資源ナショナルセンター企画 大学組織・リーダーシップの在り方を再考する

※上記の他、今年度は、『IR よろず相談会』を7/22, 7/29, 8/5, 8/19, 8/26の計5回、および2/25に『大学職員のための IR セミナール』を開催しました。

センター往来【2022年4月～2023年3月】

*所属は当時のもの(敬称略)

<2022年>

4～6月 なし

7月 廣内 大輔 (岐阜大学) 原田健太郎, 小竹 雅子 (島根大学) 杉本 和弘, 大森不二雄 (東北大学)

8月 藤村 正司 (広島大学名誉教授)

10月 伊藤 彰浩 (西南学院大学)

11月 なし

12月 Sim Choon Kiat (昭和女子大学) 堀口佐知子 (テンプル大学) Tatiana Fumasoli (ロンドン大学) Libing Wang (ユネスコバンコク事務所) 米澤 彰純 (東北大学) 白川 展之 (新潟大学) 藤村 正司 (広島大学名誉教授)

<2023年>

1月 栗原 郁太 (津田塾大学) 曹 蕾 (東北大学) 千野 雅人, 澤村 保則 (統計数理研究所)

2月 原田健太郎 (島根大学) 立石 慎治 (筑波大学) 坂詰 貴司 (芝中学校・芝高等学校) 野内 玲 (信州大学) 藤村 正司 (広島大学名誉教授)

3月 阿曾沼明裕 (東京大学) 安部有紀子, 伊藤香代子, 鬼頭 裕介, 竹永 啓悟 (名古屋大学) 蝶 慎一 (香川大学)

新任者・離任者から一言

2023年度客員研究員



伊藤 彰浩 (いとう あきひろ)

西南学院大学外国語学部
外国語学科教授

この度、広島大学高等教育研究開発センター (RIHE) の客員研究員を拝命いたしました。

これまで学部改組、大学院改革、認証評価に関する業務に携わる中で、本務校をはじめとするキリスト教系学校法人のガバナンスに関心を持つようになりました。現在、キリスト教系学校法人の寄附行為の通時的及び共時的研究を行っています。大学院生時代にお世話になった広島大学の先生方との交流の中で、RIHEの村澤昌崇先生と大場淳先生に直接御指導いただく機会に恵まれました。このような「創造的出会い」(creative encounter)に心より感謝申し上げます。任期中に具体的な研究成果を出せるよう精進してまいります。どうか御指導よろしくをお願いいたします。



梅崎 修 (うめざき おさむ)

法政大学キャリアデザイン学部
キャリアデザイン学科教授

この度は、貴センターの客員研究員の機会をいただき、大変光栄に存じます。

私の専門は、労働経済学になります。これまで企業内の人材育成に加えて、学校(特に大学)での教育と職業キャリアとの接続について、統計分析や聞き取り調査によって実証研究を続けてきました。教育や職業能力は、教育学はもちろんですが、経済学においても重要な研究対象です。しかし、その観察は難しく、産業の変化によって求められる能力も常に変動しています。長期のキャリア形成過程を対象にして、高等教育と企業人材育成をどのようにつなげて研究を前進させられるか。高等教育の研究者の皆さんと一緒に議論させていただければ幸いです。どうぞよろしくをお願いいたします。



大前 敦巳 (おおまえ あつみ)

上越教育大学大学院学校教育研究科教授

上越教育大学の大前敦巳と申します。このたびは貴センター客員研究員の機会を与えていただき光栄に存じます。遠方から

ですが、オンライン等も活用しながら貴センター構成員の皆様と研究交流を図ることができればありがたいと思います。最近、科研共同研究で大学と都市の相互浸透性に着目した日仏比較に取り組んでおり、今年6月6日と8日には、いずれも午後6時から東京恵比寿の日仏会館で、フランスからロイック・ヴァドロルジュ氏(ギユスターヴ・エッフェル大学)とエレオノール・マランツ氏(パリ第1大学)を招聘し、「大学の都市史と建築史」をテーマに講演会を開催する予定です。ソルボンヌに象徴される古典学問から、パリ南郊サクレーに理工系の研究拠点が形成されるなど、大学拡張に伴う学問文化の変容に関心をもっています。微力ながら貴センターの活動に貢献できるよう研鑽に努めたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。



近田 政博 (ちかだ まさひろ)

神戸大学大学教育研究センター
副センター長/教授

神戸大学の近田政博です。令和4年度に改組されて誕生した大学教育研究センターに勤務し

ています。また、教養教育院の副院長として、全学共通授業科目のカリキュラム改革に取り組んでいます。日本の大学はひたすら評価書類を積み上げ、競争的資金獲得のために申請書を積み上げ、結果的に現場の教職員は疲弊しているようにみえます。お上の言うことに唯々諾々と従うのではなく、現場の教職員や学生が元気になるために何をすべきかを考えたいと思っています。ご指導をよろしく申し上げます。



濱中 義隆 (はまなか よしたか)

国立教育政策研究所・
高等教育研究部総括研究官

このたびは客員研究員の機会を与えていただき有難うございます。実は、2009年度以来の2

回目の就任になります。当時、どのような貢献を出来たのか甚だ心許ないところですが、その後も、研究員集会における報告や司会の担当、大学論集の査読など、折々に貴センターの業務に関わらせていただいております。現在、国立教育政策研究所に勤務していることもあり、ここ数年は「全国学生調査」や「高等教育の修学支援新制度」など文部科学省の政策に直接関わる事柄についての調査研究に加えて、その制度設計の場面にも少なからず携わって参りました。センターの多彩(多才)な先生方との交流を通じてさらに見識を深められればと存じます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



平尾 智隆 (ひらお ともたか)
摂南大学経済学部准教授

この度は RIHE 客員研究員の機会を頂き、誠にありがとうございます。学歴や高等教育の労働市場効果の研究を志し、大学院で研究をはじめた1990年代後半、日本では教育は経済学の主要な分析対象ではありませんでした。日本の研究が少ない中、RIHE が刊行する様々な研究成果が私の道標になっていました。コロナ禍直前の2020年1月に RIHE 公開研究会で発表させて頂きましたが、その時の発表論文も大本をたどれば『大学論集』に掲載された論文に触発されて書いたものでした。現在は、村澤昌崇先生のみならず、前任校の卒業生かつ RIHE 卒業生の研究者達と共同研究を進めています。今後は、RIHE とともに研究成果を創出できればと考えています。どうぞよろしくお願ひいたします。

2023 年度学内研究員



渡邊 恵 (わたなべ めぐみ)
総合戦略室講師

この度は、学内研究員の機会をいただきありがとうございます。私は2016年にグローバル化推進室の University Education Administrator (UEA) として広島大学に着任し、2018年からは総合戦略室所属の教員として勤務しています。これまで国際連携事業を主に担当しながら、IR 本部(複数部署の教職員が参画する IR データの活用推進を目指した組織横断的プロジェクト)や学長特任補佐の業務などを通じて大学運営について学んできました。専門は社会学で、大学の教授職について、ジェンダーと多様性の視点

から研究を行っています。これからは、大学本部所属のポジションを活かせるよう研究の幅を広げていき、RIHE の皆様と一緒に大学運営に関わる様々なテーマに取り組んでいきたいと考えています。ご指導のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。

2022・2023 年度新任教職員



石田 麗 (いしだ れい)
高等教育研究開発センター教育研究補助職員
(2023年1月着任)

この度は貴センターで皆様と一緒に働く機会を賜り誠にありがとうございます。鈴木さんの後任として1月に着任いたしました。

わたしはこれまで主に自動車業界にてパイヤーとしてのキャリアを積んでまいりました。学際での仕事ははじめてで慣れないことも多く、戸惑うこともございますが、少しでも早く新たな環境に慣れ、みなさまのお役に立てますよう精進してまいる所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。



野内 玲 (のうち れい)
高等教育研究開発センター准教授
(2023年4月着任)

この度、教員として着任することになりました野内と申します。高等教育にて歴史と伝統あるセンターにてポジションを得る機会をいただき、大変光栄に思っております。私の専門は科学哲学で、科学における認識論の問題を研究する傍ら、学術研究活動全体と社会の関係や研究倫理・研究公正に関する課題にも取り組んできました。最近ではむしろ後者の方が本業になりつつあります。これまで本当に多様な研究者との接点があり、多くの研究現場にお邪魔し、学際的なモチベーションで研究活動を続けてきました。すでに小林先生や村澤先生、数名の OB・院生さんとは共同研究等の関係で連携しておりますが、少しでも早く広島大学と RIHE の風土に慣れ、新たに RIHE で同僚となる先生方や大学院生の皆さんともよいコラボレーションができればと願っています。どうぞよろしくお願ひいたします。



李 昕 (り しん)

高等教育研究開発センター特任助教
(2023年4月着任)

My name is Xin LI and I am from China. It is a great honor for me to join RIHE as a specially-appointed assistant professor from April 1, 2023. I recently obtained my Ph.D. degree in Educational Administration from Seoul National University in August 2022. During my doctoral program, I had the opportunity to work as a graduate consultant in higher education governance at the Asian Development Bank for four months in 2020. Prior to that, I worked as a part-time researcher on higher education reforms and policies at the Educational Affairs Office of the Embassy of China in Korea for one year. My research interests lie in comparative studies of university missions and the academic profession, with a particular focus on international, female and early-career academics. I sincerely look forward to collaborating with you and having discussions on these research themes. Please do not hesitate to contact me if you have any questions or would like to visit me in person.

2022年度離任者



鈴光 知恵 (すずみつ ちえ)

この3月をもちまして、9年間お世話になったセンターを退職することになりました。大学の業務についてなにも知識がなく、また広島での生活にも慣れていなかったため、しばらく公私ともに右往左往していた自分が懐かしく思い出されます。

センターでは、国内外たくさんの研究者の方々とお仕事をさせていただき、とても貴重な経験となりました。思い返せば、困難に直面したとき、いつもセンターの皆様がそばにいて手を差し伸べてくれました。特に事務の方々には、大変助けられました。センターの皆様がいたからこそ、これまで頑張ってくることができたと感謝の気持ちでいっぱいです。

毎日出勤していたセンターを去るのはさみしいですが、これからは離れた場所からセンターのご活躍を拝見します。これまで本当にありがとうございました。

修了生



薛 嘉禾 (せつ かか)

博士課程前期修了 (2023年3月)

修士生活を振り返ると、一番に頭に浮かぶのは友達のことだ。この2年間はつらいことや悲しいこともあった反面、楽しい事、面白いことも多くあり、とても充実したものだ。このような充実した日々を過ごすことができたのも、つらい事や楽しいことを共に分かち合えたかけがえのない仲間がいたからだと思う。ゼミのことを振り返ると、大変でいやだーーと思ったこともあったけど、村澤先生とゼミの先輩はちゃんと最後まで面倒をみてくれた。最後まで頑張ることができ、村澤先生と先輩にはとても感謝している。2年間は、本当に一瞬で終わってしまう。後輩の皆さんは諦めずに頑張る事で自分が頑張っただけ結果はかえってきますので頑張ってください。



丁 秀玉 (てい しゅうぎよく)

博士課程前期修了 (2023年3月)

研究生から2年半の間、いろいろお世話になりました。黄先生をはじめとする先生方のご指導のおかげで、高等教育を深く知ることができ、博士課程前期を修了することができました。さらに、高等教育への関心が高まってきて、大学業界へ就職することができました。先生方に心から感謝申し上げます。

また、常に刺激的な議論をいただき、2年半間をとっても有意義なものにしてくださった先輩や同窓生等研究室のメンバーに、勉強や研究をサポートしてくれた事務の方々に、深謝いたします。

4月からは他県で社会人生活が始まりますが、公私ともに充実した日々を過ごせるよう頑張ります。RIHEで学んだことを活かすことと共に、生涯学び続けることを怠りません。創立50周年を迎えるにあたり、センター益々のご発展をお祈り申し上げます。



馬 晨暉 (ば しんそう)

博士課程前期修了 (2023年3月)

私は広島大学高等教育研究開発センターで充実した院生生活(研究生半年と修士二年)を送りました。卒業にあたって、私の主指導の Yangson Kim 先生、副指導の黄福涛

先生、中矢礼美先生、指導教員ではないにもかかわらず丁寧に助言してくださった小林信一先生、村澤昌崇先生、吉田香奈先生に感謝の気持ちを申し上げます。そのほか、事務の方々、先輩の皆様、同級生の皆様、研究調査に協力してくれた先生方と学部生たちにも色々とお世話になりました。皆様に心からの謝意を表します。最後に、センターの更なる躍進をお祈り申し上げます。



葉 茜 (よう せん)

博士課程前期修了 (2023年3月)

2020年10月に、私は広島大学高等教育研究開発センターの一員として新しい一歩を踏み出しました。先生方をはじめ RIHE の関係者の皆様のおかげで、研究を進めることができ心から感謝しております。また、RIHE で同じ志を持った友人たちと出会い、共に笑い、学んだ2年半は長いようで短く、思い出豊かな大学院生活でした。これから自分の目標に向かって新しい道を歩み始めます。RIHE で学び、過ごした日々を誇りと自信を持ち、ここで得た経験を活かし、次代の女性リーダーとして社会で活躍できるように精進して参ります。最後には改めていつも親身にご指導、ご支援くださった先生方、職員の皆様、様々な困難を共に乗り越えてきた友人たち、そしていつも成長を見守り、支え続けてくれた先輩方に、改めて深く感謝致します。ありがとうございました。

※上記の方々以外に、2023年3月は談之兮さん、劉菡儀さんが博士課程前期を修了されました。(引き続き、博士後期課程進学のため省略)

就職者



中尾 走 (なかお らん)

広島市立大学大学評価・IRセンター特任助教
博士課程後期修了 (2022年9月)

広島大学高等教育研究開発センターでの思い出は、多くの先生や研究者との出会いがあり、刺激的な研究環境の中で多くのことを学びました。特に、大学教育の評価や改善についての研究に携わり、実際に大学現場でのアクションリサーチを行うことができたことは、非常に貴重な経験でした。現在は、広島市立大学特任助教 (IR 担当) として、大学の国際化や研究評価など、大学の戦

略的な取り組みに関わる業務に従事しています。大学が地域社会や国際社会に貢献するために、様々な課題に対してチャレンジしていくことが大切だと感じています。私自身も、研究や業務において、積極的に新しいことに挑戦していきたいと思っています。



樊 怡舟 (はん いしゅう)

広島大学高等教育研究開発センター
特任学術研究員
博士課程後期修了 (2022年9月)

この度、博士課程後期を修了し、博士学位をいただきました。

RIHE の研究生になった2015年の秋から7年間 RIHE の先生方、事務の皆様には大変お世話になりました。中でも7年間指導教員として勉学のみならず生活上の相談にも乗っていただくなど、いつも温かく見守ってくださった佐藤万知先生に厚く御礼申し上げます。

昨年5月から RIHE の特任学術研究員に着任し、今までの学修経験を活かしながらさらに視野を広げ、一若手研究者として高等教育研究や社会科学方法論の検討に微力ながら貢献していきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



陳 麗蘭 (ちん れいらん)

大阪大学スチューデント・ライフサイクル
サポートセンター特任助教
博士課程後期修了 (2022年9月)

2016年10月に、研究生として、入学させていただき、2022年9

月に、博士として無事に卒業を迎えることができ、ちょうど6年になります。この6年間は、黄先生をはじめ、大膳先生、藤村先生、丸山先生、金先生などの先生方からご指導・ご鞭撻を賜り、心より深くお礼を申し上げます。また、事務の方々、先輩、後輩及び同期の皆様にも大変お世話になり、厚く感謝致します。高教研での6年間を振り返ってみると、苦しい・悲しい・忙しい日もありましたが、楽しい・充実した毎日でした。高教研へ来て、非常に良かったと思います。これからは、高教研で習得した高等教育の専門知識とこの6年間で学んだ高教研の精神をちゃんとこれからの人生に生かしていきたいと思っています。今後とも、引き続き、どうぞよろしくお願ひ致します。

新入生



魏 琰 (ぎ えん)

博士課程前期入学 (2023年4月)
※研究生 (2022年10月入学) より進学

初めまして、2023年4月より博士課程前期でお世話になる魏琰(ギエン)と申します。大学で日本語学と経営学を履修し、多様な学習活動を体験しました。卒業後の一年間は高校の教師として仕事をしていた間に、現場で中国の私学運営体制に触れ、中国の私学政策を受ける人として、私学の発展に強い関心を持ちました。また将来は、大学の場へ戻って、大学で働きたいという気持ちが強くありますので、高等教育学コースにおいて、体系的に履修し、このコースで学術的見地から効果の検証を行いたいと考え、研究テーマは「私学に関する教育政策」を設定しています。

これから広島大学のRIHEで諸先生方をはじめ、先輩や同級生の皆さんにもいろいろ教えていただきながら研究を進めて参りたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。



崔 倡 (さい しょう)

博士課程前期入学 (2023年4月)
※研究生 (2022年10月入学) より進学

2023年4月より博士課程前期に進学した崔倡と申します。2022年10月から研究生としてRIHEで高等教育に関する知識や研究方法などを勉強していました。先生や先輩たちからいろいろな助けをいただき、心から感謝しております。

近年の中国において、コロナ禍の影響と経済発展の減速によって、大学院入学競争は厳しくなっています。社会のニーズにこたえる高度な人材の育成と受験生のストレスの解消のため、修士学生募集制度と大学の教育実態の連動を配慮して募集制度の改善を検討したいと思っています。

今後の研究生生活の中で、しっかり勉強して異文化環境において国際的な視野を広げたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



潘 安南 (しん あんなん)

博士課程前期入学 (2023年4月)
※研究生 (2022年10月入学) より進学

はじめまして、2023年4月より博士課程前期に入学いたしました潘安南と申します。2021年に日本政府の国費外国人留学生制度による日本

語・日本文化研修留学生として来日した経験があり、それをきっかけに日本の生活や文化に大変興味を持つようになりました。帰国後「再び日本へ」と決意し、広島大学に留学することにしました。今回の留学を通じて、日本の生活や文化、そして日本の高等教育もより詳しく分かるようになることを望んでいます。また、語学にも興味を持ち、2022年から韓国語を独学しており、修士卒業後は、韓国に留学できるよう、日々頑張っているところです。

これからセンターの皆様にもいろいろと教えていただきながら研究を進めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



陳 嫻 (ちん かん)

博士課程前期入学 (2023年4月)
※研究生 (2022年10月入学) より進学

はじめまして、2023年4月より修士として入学する陳嫻と申します。2022年6月に中国の大学を卒業した後、高等教育に関する研究への興味と憧れをきっかけに、日本に留学しました。今後RIHEの先輩たちと一緒に勉強したいと思っています。

これから先生方のご指導のもとで、高等教育の知識を身につけて、中国の外国人留学生奨学金制度を理解して、視野を広げ、「中国における外国人留学生政策に関する研究—奨学金制度に注目して」を研究テーマとし、中国の高等教育を明らかにし、順調に修士論文を完成したいと思います。

また、将来は大学職員になり、学んだ知識や技能を実践に生かしたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



横山 真輔 (よこやま しんすけ)

博士課程前期入学 (2023年4月)

この春より博士課程前期に入学致しました横山と申します。早稲田大学商学部を卒業後、(株)電通に入社。現在は(株)電通コーポレートワンに勤務しています。

コロナ禍に様々な地域の大学生と話す機会があり、日本の高等教育の現状について問題意識を持ちました。僕にとって大学とは、師や友と出会い、議論し高めあう場所でした。

大学は「なにができるようになったのか」が大切だと掲げられていますが、現状はどうでしょうか。大学の現在地はどうなっているのか。教職員・学生にとって、より良い大学生活を送るためには

どのような取り組みが有効なのか。

RIHE という最高の学びの場を頂き感謝の気持ちでいっぱいです。ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

※上記の方々以外に、2023年4月は王春雨さん、李国鴻さんが、博士課程前期に入学されました(研究生より入学(前号掲載)のため省略)。また劉菡儀さん、談之兮さんが博士課程後期に入学されました。(博士課程前期より進学のため省略)

研究生



橋本 みのり (はしもと みのり)
(2023年4月入学)

はじめまして。石川県金沢市在住の橋本みのりと申します。金沢市内の大学で事務職員をしております。2023年3月に放送大学の修士課程を修了し、4月から研究生としてお世話になっております。博士課程後期への進学を視野に、高等教育に関する知識や様々な研究手法について学び、研鑽を積みたいと存じます。研究テーマは、大学職員の職業的自己効力感と専門性獲得との関係性についてです。高等教育研究開発センターの諸先生、先輩方、事務室のみなさま、1年間どうぞよろしく願いいたします。

情報調査室だより



蔵書検索システムが新しくなりました！

情報調査室では、高等教育関連の学術書はもちろん灰色文献とよばれる希少資料も多く所蔵しています。それら RIHE の蔵書はこのシステムでしか検索することができません。

▶▶ 新 URL

(日) <https://www.lib-finder.net/rihe.hiroshima-u.search/>

(英) https://www.lib-finder.net/rihe.hiroshima-u.search/?word_mode=3

▶▶ 機能紹介

メニュー画面に「新着図書リスト」を掲載

複数の検索語をスペースで区切って入力することで AND 検索可能な「フリーワード検索」

書名・著者名等を指定して検索をおこなう「詳細指定検索」

検索結果に「書影表示機能」あり (アマゾンヘリンク)

書誌詳細 注：表示されない資料もあります。

HIGHER EDUCATION RESEARCH: CHALLENGES AND PROSPECTS Report of RIHE's 50th Anniversary International Symposium (Report of RIHE's 50th Anniversary International Symposium)

(著者名) Research Institute for Higher Education, Hiroshima University (出版年) 2021.11

Amazon のサイトで見る